

# 感染症の最近のトピックス

《平成25年11月27日大阪市北区医師会病診連携委員会》

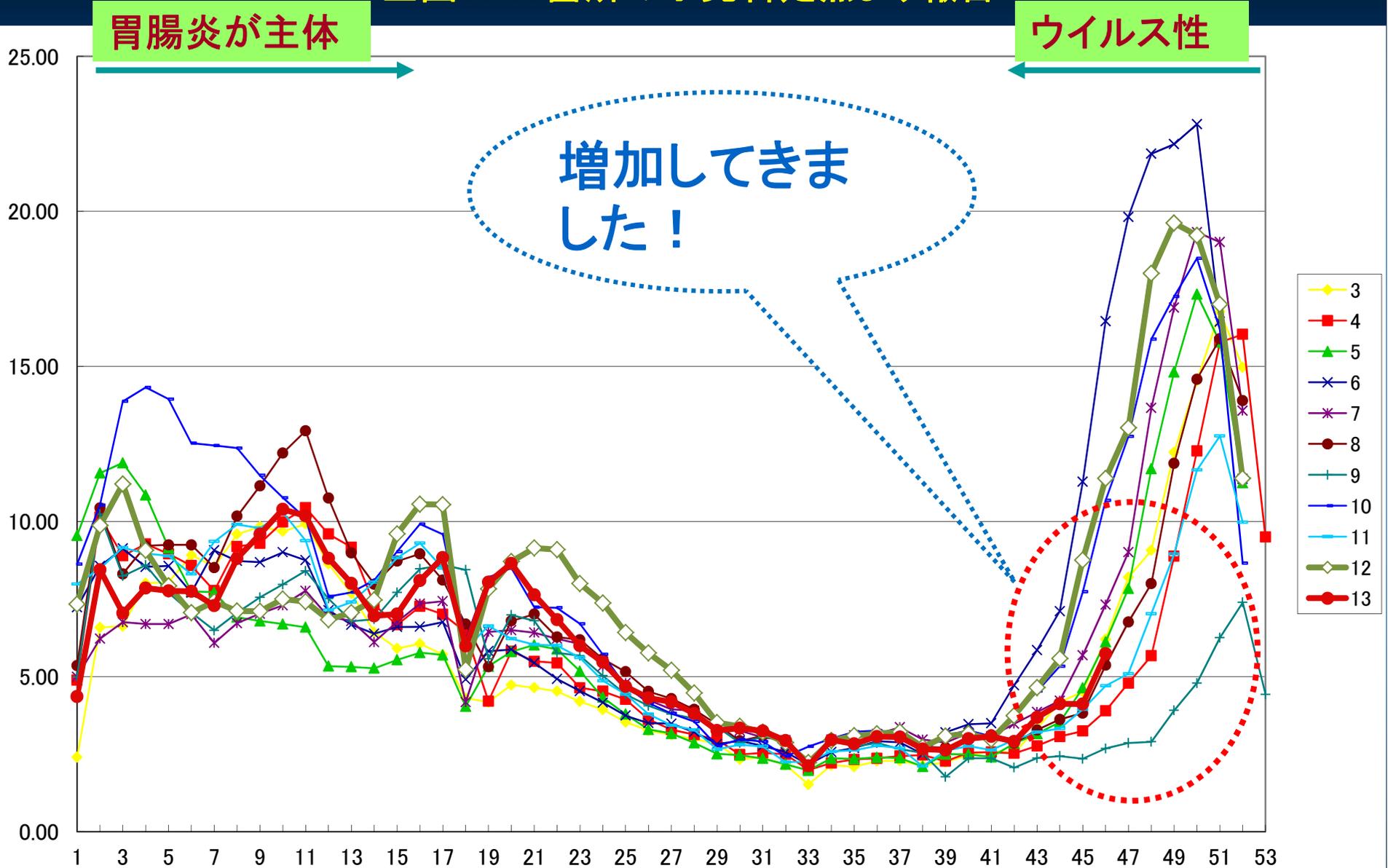
安井良則

(大阪府済生会中津病院)

# ノロウイルス

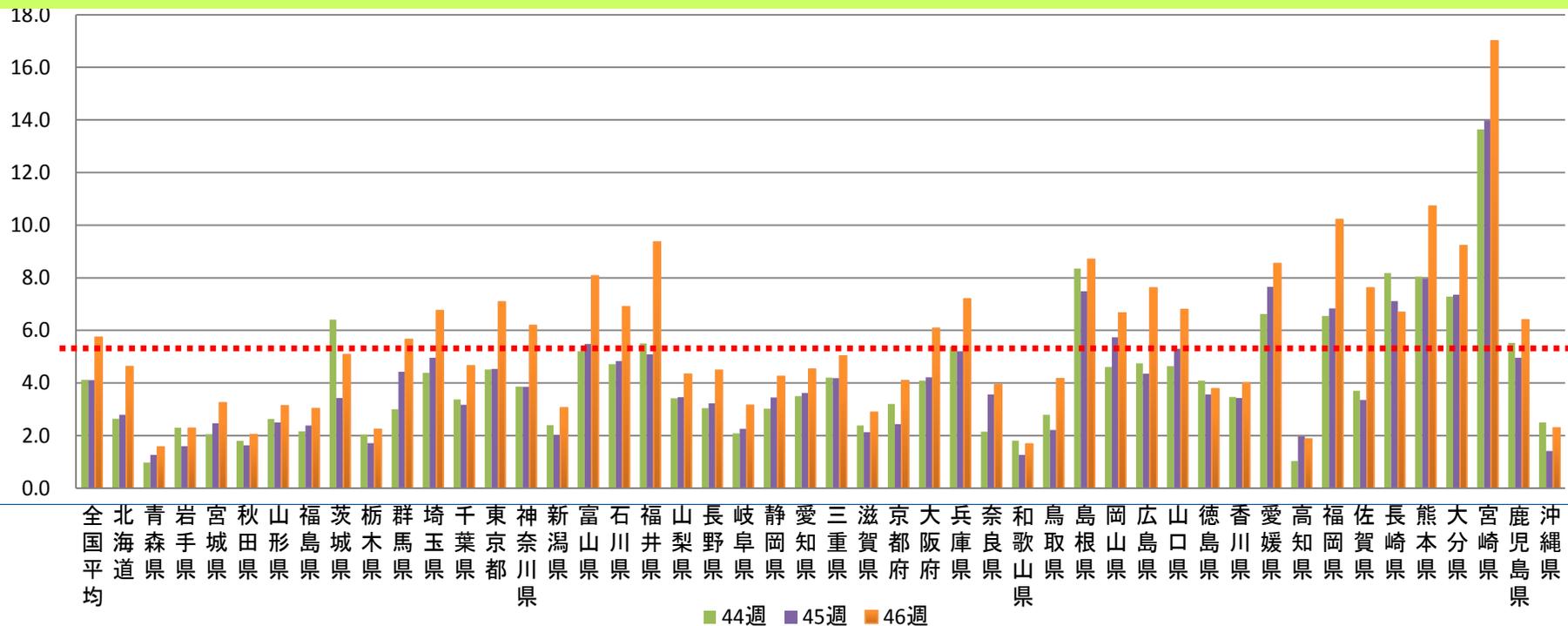
# 感染性胃腸炎の週別発生状況(2003年～2013年第46週現在)

—全国3000箇所の小児科定点より報告—



# 感染性胃腸炎の都道府県別定点当たり 報告数推移(2013年第44~46週)

☆45都道府県で前週の報告数よりも増加がみられています。大阪府は第44週以降3週連続で増加しています。

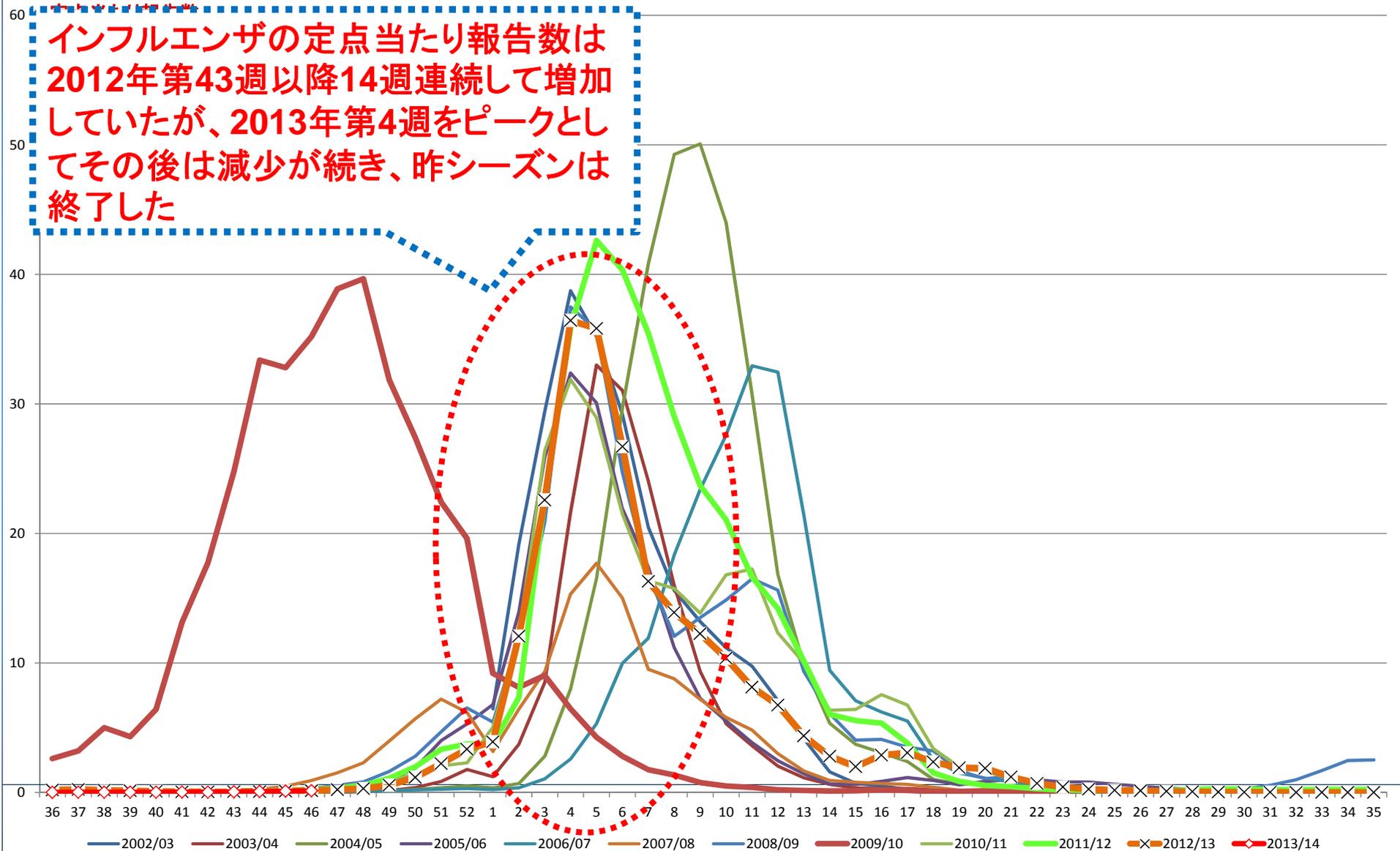


# 発生動向のまとめ①

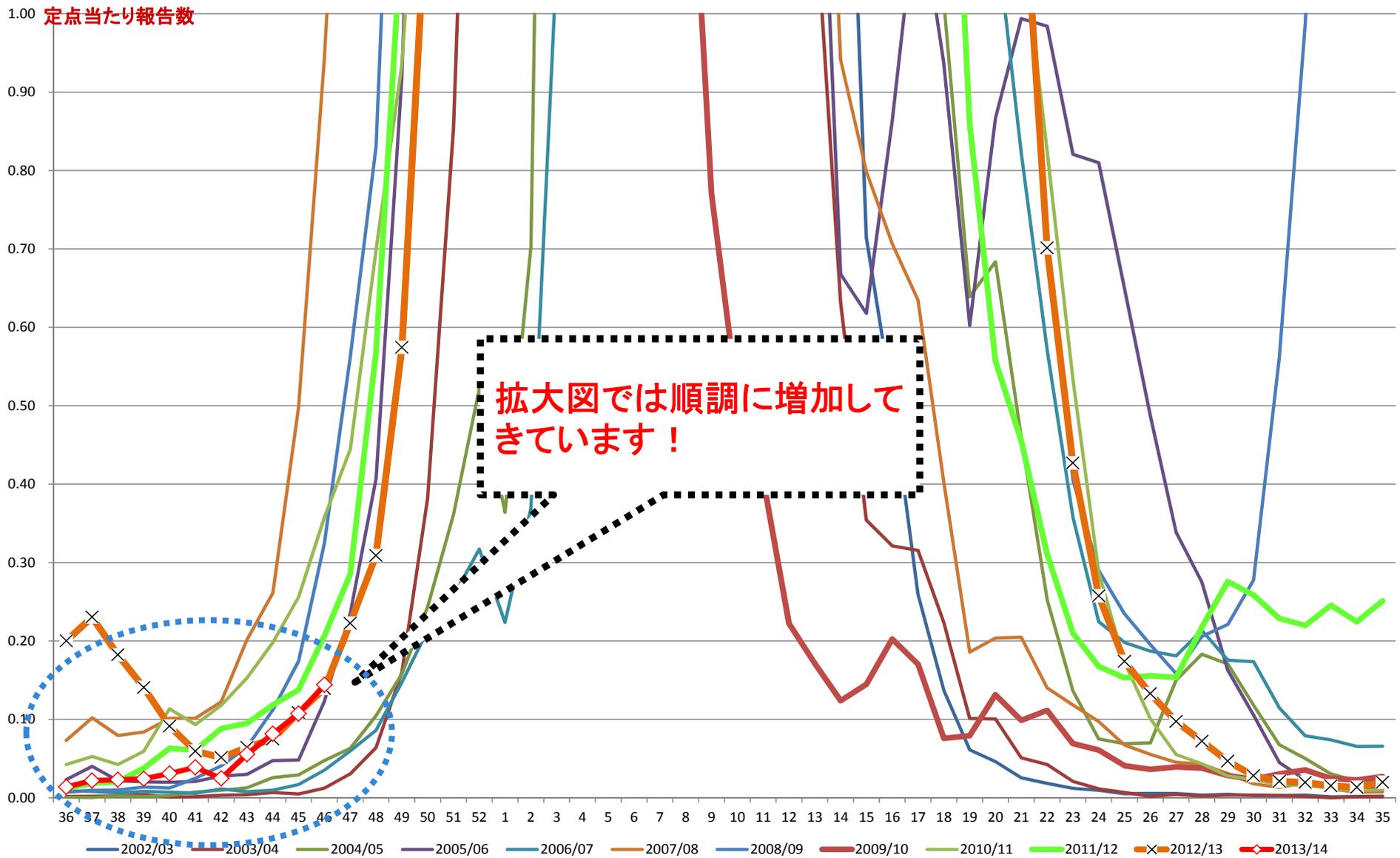
- ウイルスの抗原性が変化したと推定される昨シーズンと比較して、今シーズンの患者報告数の上昇はこれまでのところ緩やかである
- しかし、第46週は前週と比べて急増がみられており、例年通り12月の流行のピークに向かって流行は本格化してくるものと予想される
- 今年もノロウイルスの流行には注意が必要である

# インフルエンザの発生動向

# インフルエンザのシーズン別の定点あたり報告数の週別推移 (2002/2003年シーズン～2013/2014年シーズン)

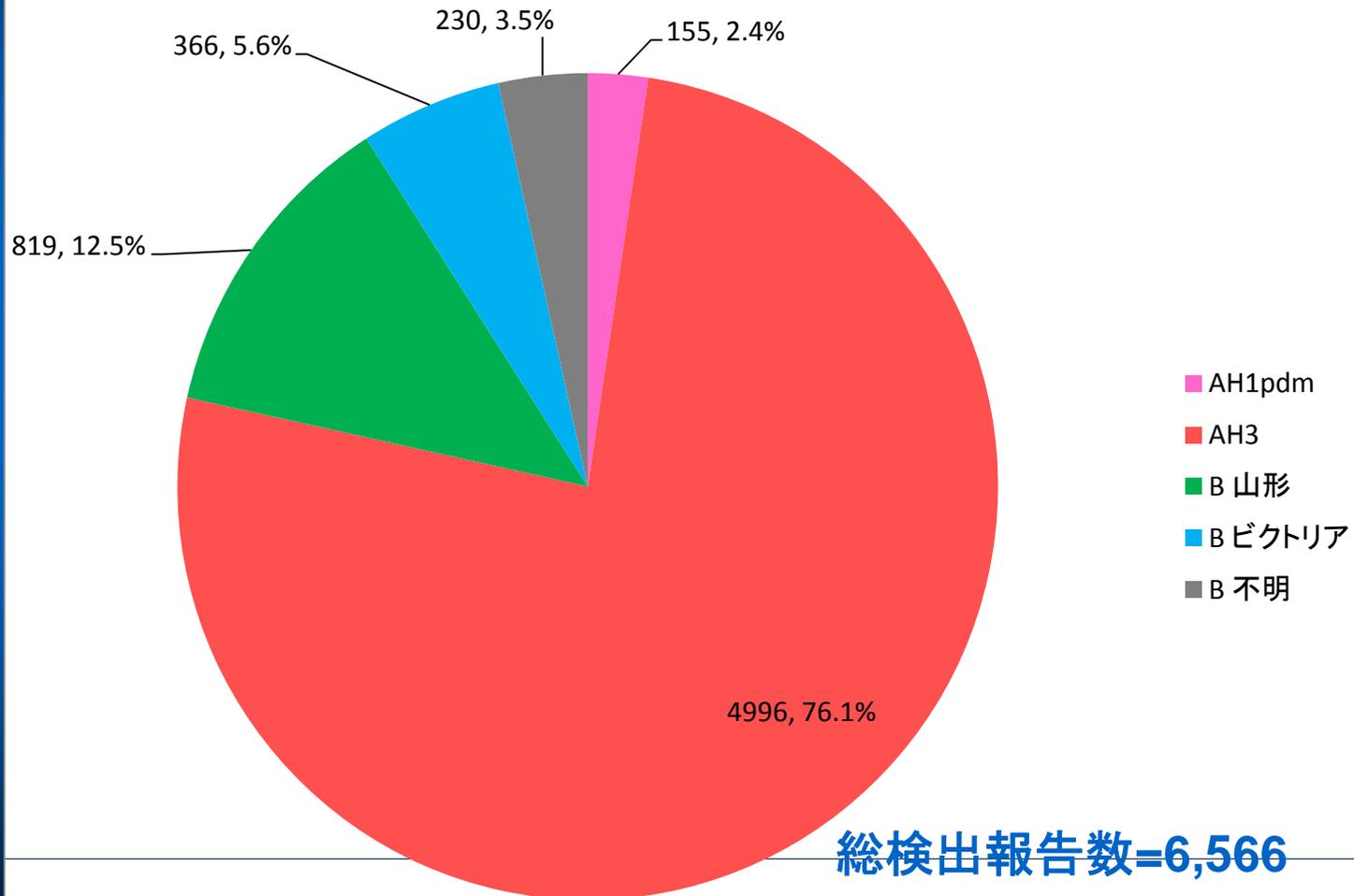


# インフルエンザのシーズン別の定点あたり報告数の週別推移 (2002/2003年シーズン～2013/2014年シーズン)



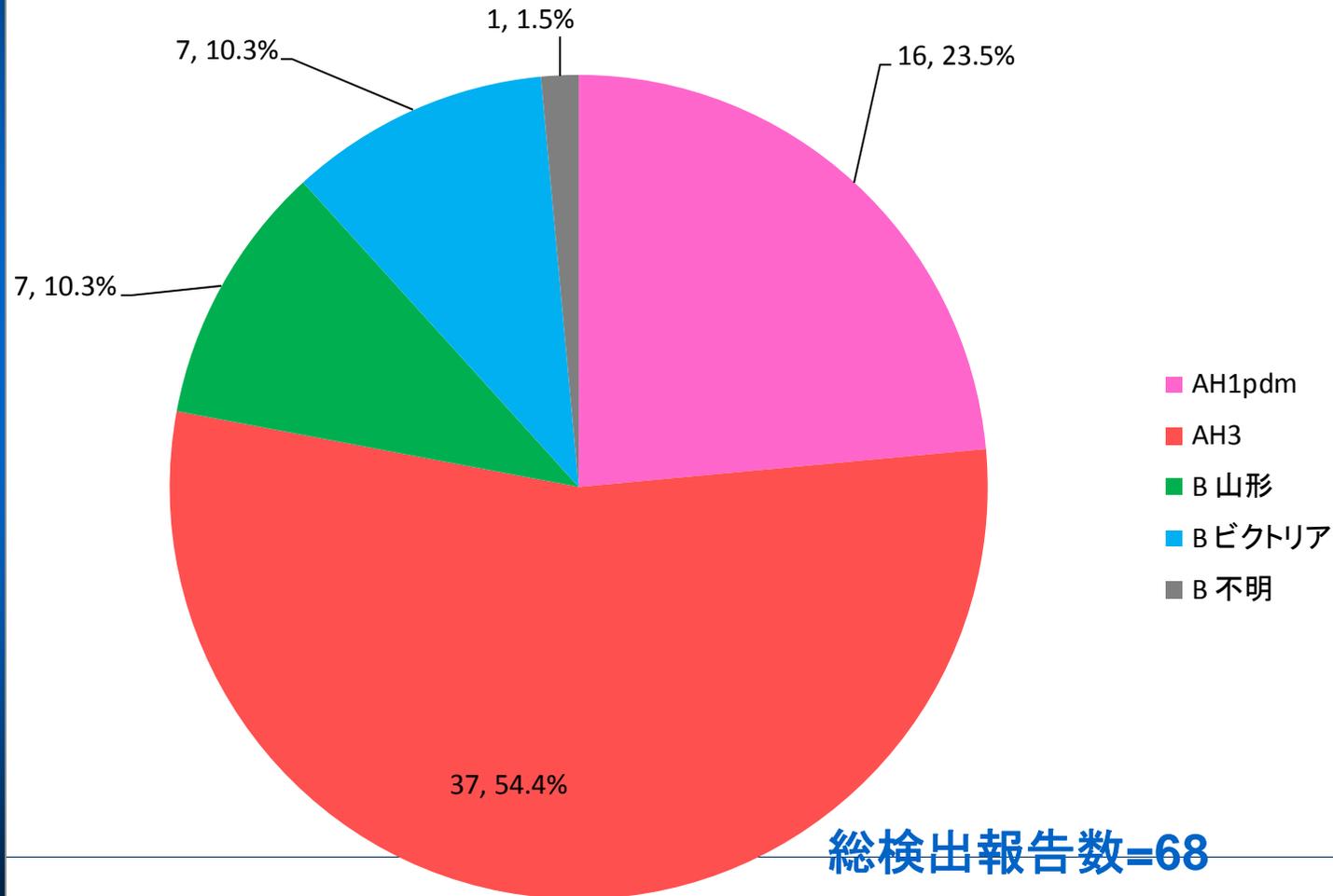
# インフルエンザウイルス検出状況 (2012年第36～2013年第35週)

2012/2013シーズンインフルエンザウイルス検出状況(2012年第36～2013年第35週)



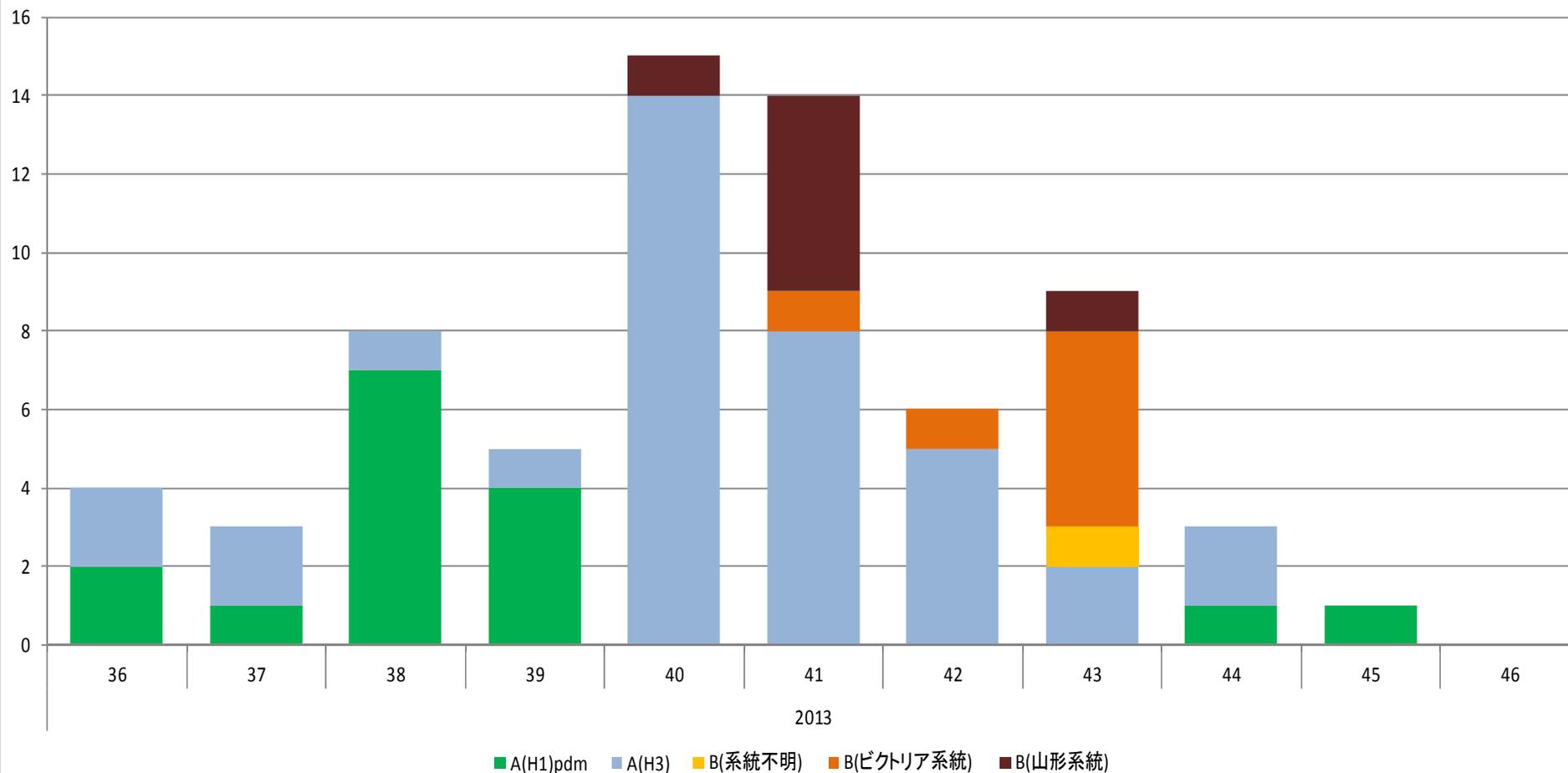
# インフルエンザウイルス検出状況 (2013年第36～2013年第46週)

2012/2013シーズンインフルエンザウイルス検出状況(2013年第36～2013年第46週)



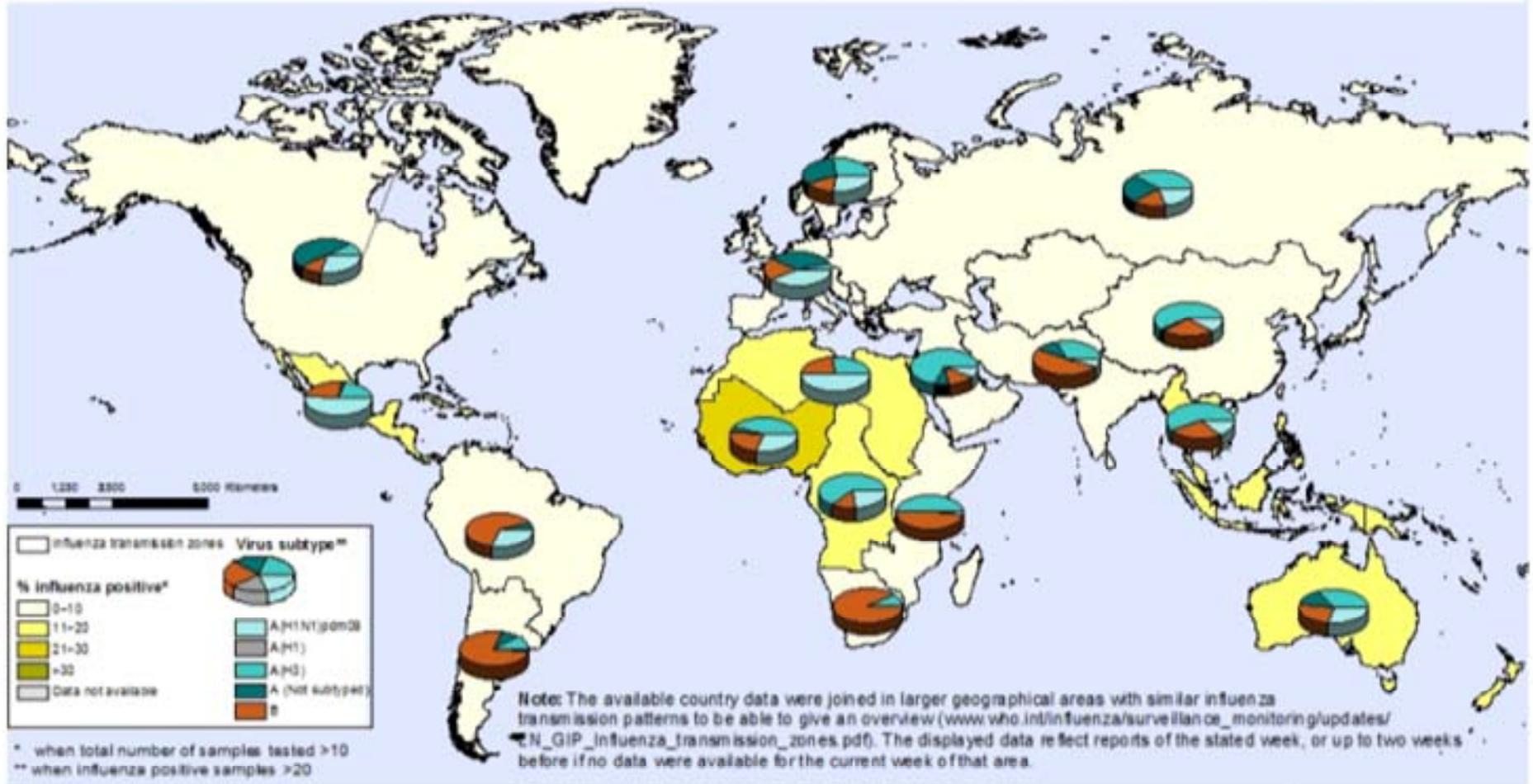
# インフルエンザウイルスの週別検出状況 (2013年第36～2013年第46週)

インフルエンザウイルスの週別の検出状況(2013年第36～2013年第46週)



# Percentage of respiratory specimens that tested positive for influenza By influenza transmission zone

Status as of week 45  
03 - 09 November 2013



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: WHO/GIP, data in HQ as of 20 November 2013. Data used are from FluNet (www.who.int/flu-net), 11:30 UTC snapshot, from WHO regional offices and/or ministry of health websites.

 **World Health Organization**  
©WHO 2013. All rights reserved.

http://www.syndromic-surveillance.net/yakkyoku/index.html

国立感染症研究所 感染症情報センター  
**症候群サーベイランス**  
● 早期検知システムのご紹介

国立感染症研究所 感染症情報センター：  
ホーム > 薬局

### 薬局 Prescription

調剤薬局の処方せんサーベイランス

現在の参加薬局数 9365 薬局 [詳しく](#)

薬局サーベイランスでは、「インフルエンザ推定患者数」を一般公開しています。  
昨日のインフルエンザ流行状況が迅速把握できます。

**インフルエンザ流行の速報はこちら。**

インフルエンザ推定患者数  [薬局](#)

● 昨日の状況

感染症対策部局のご担当者さまへ

薬局サーベイランス  
自治体  
活用例

- 社説
- 入稿
- 非急ぎ送付
- 薬量
- Q&A
- 位置図
- 定規と紙
- 基礎情報
- 検索
- 活用事例

論文ダウンロード

イベント開催時における強化サーベイランス

一般公開について

お問い合わせ

- ID 現状の概要
- ID 協力薬局率
- ID 協力薬局あたり人口
- ID 精度
- ID 協力薬局数毎の発生動向調査との相関
- ID 還元画面
- ID 薬局サーベイランス日報・週報
- ID 各薬局での異常検知
- ID 地域での異常検知
- ID くすりサービサーからのお知らせ

現状の概要

連絡先  
国立感染症研究所 感染症情報センター  
主任研究官 大日康史  
mail: ohkusa@nih.go.jp  
FAX: 03-5285-1129

薬局サーベイランス「URL : <http://www.syndromic-surveillance.net/yakkyoku/index.html>

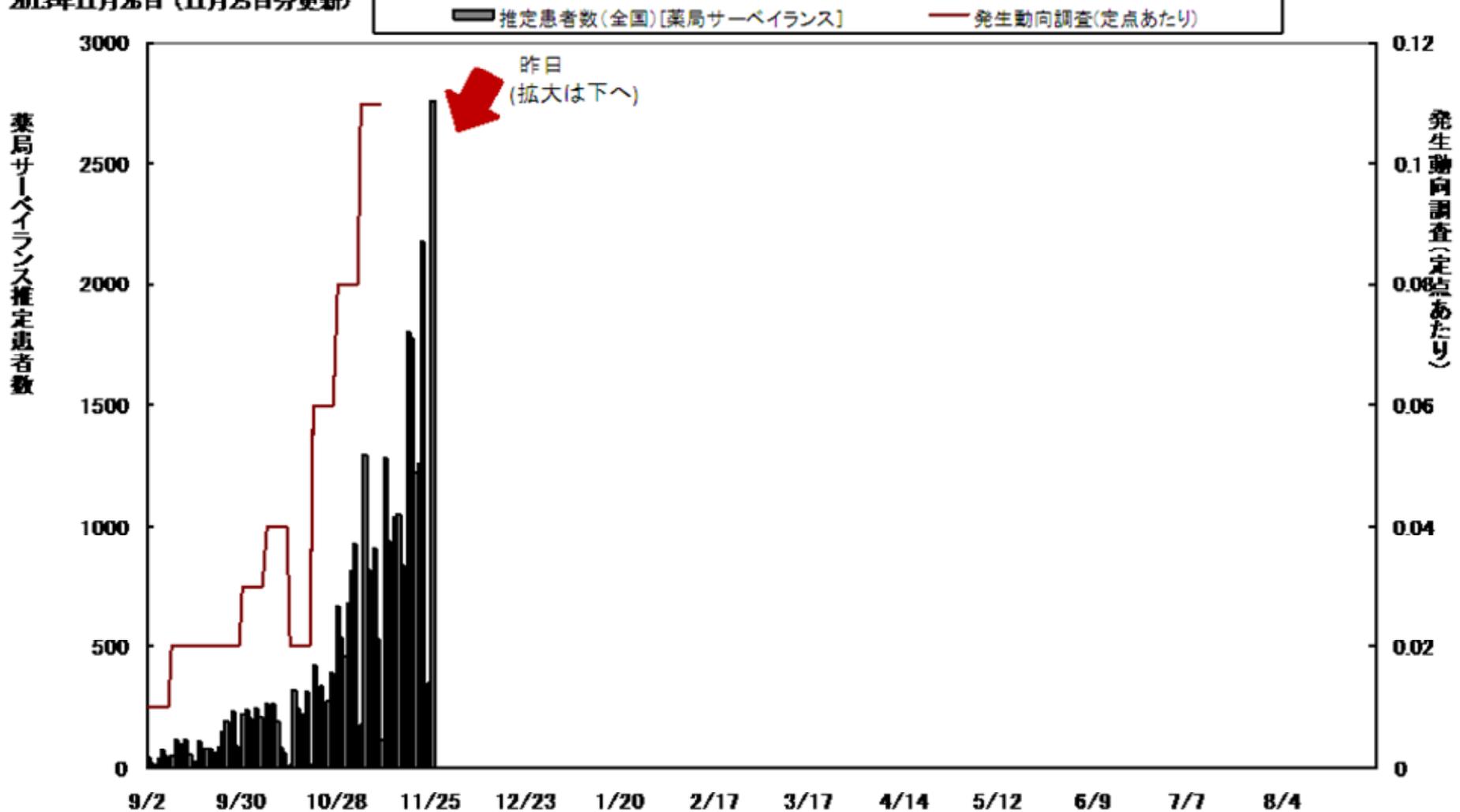
100%

NATIONAL INSTITUTE OF INFECTIOUS DISEASES  
国立感染症研究所

# 薬局サーベイランスによるインフルエンザによる 推計受診患者数の日別推移(全国)

日報

2013年11月26日(11月25日分更新)



# 発生動向のまとめ①

- 2012/2013年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2012年第43週以降14週連続して増加して2013年第4週にピーク(定点当たり報告数36.44)を迎え、その後は減少が続いて第22週に定点当たり報告数は0.70と1.00を下回った
- 今シーズンも11月に入って患者報告数は右肩上がりとなっており、このままのペースで行くと昨シーズンと同様に12月に流行宣言となる可能性が高い
- これまで検出されたウイルスの数はまだわずかであるが、今シーズンはインフルエンザA(H1N1)pdm2009の検出割合が昨シーズンよりも高くなっている
- 今シーズンも冬期を中心にインフルエンザの流行が日本国内で発生していくものと予想されるが、まだどのインフルエンザウイルスが流行の主流を占めるのかについては全く予想はできない

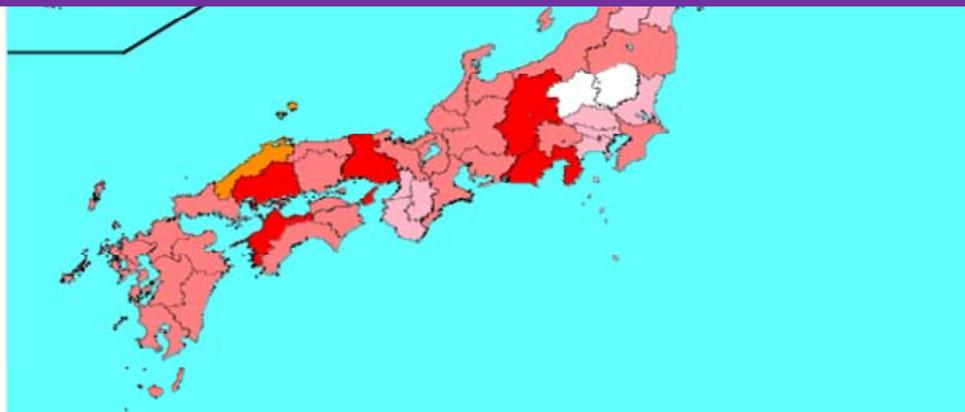
## インフルエンザ流行レベルマップ

お知らせ 次回の更新は、3月8日(金)の予定です。

2013年 第08週(2月18日~2月24日) 2013年2月27日現在

**コメント**▶ 2013年第8週の定点当たり報告数は13.90(患者報告数68,661)となり、第5週以降減少が続いている。  
定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約78万人(95%信頼区間:71万人~85万人)とこちらも第5週以降減少が続いている。年齢別では5~9歳約14万人、0~4歳、30代がそれぞれ約10万人、10~14歳約9万人、40代約8万人の順となっている。また、2012年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約1,058万人(95%信頼区間:1,029万人~1,087万人)であった。  
都道府県別では愛知県(28.14)、広島県(24.70)、鹿児島県(24.32)、福井県(24.16)、高知県(22.71)、愛媛県(22.48)、徳島県(22.45)の順となっている。40都道府県で前週の報告数より減少が認められた。

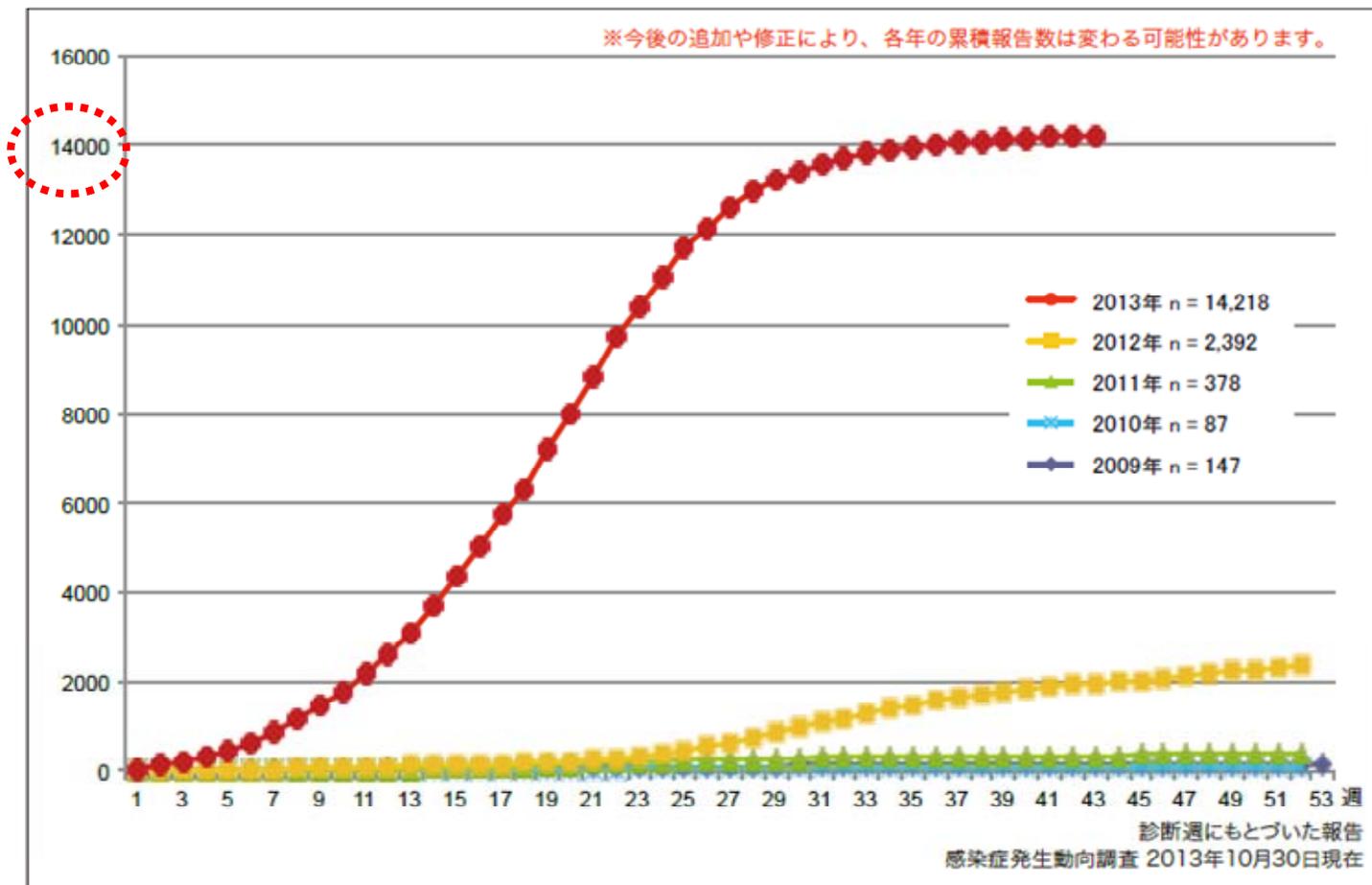
# 間もなく再開されます！



# 風しんの累積報告数の週別推移 (2009年~2013年第43週)

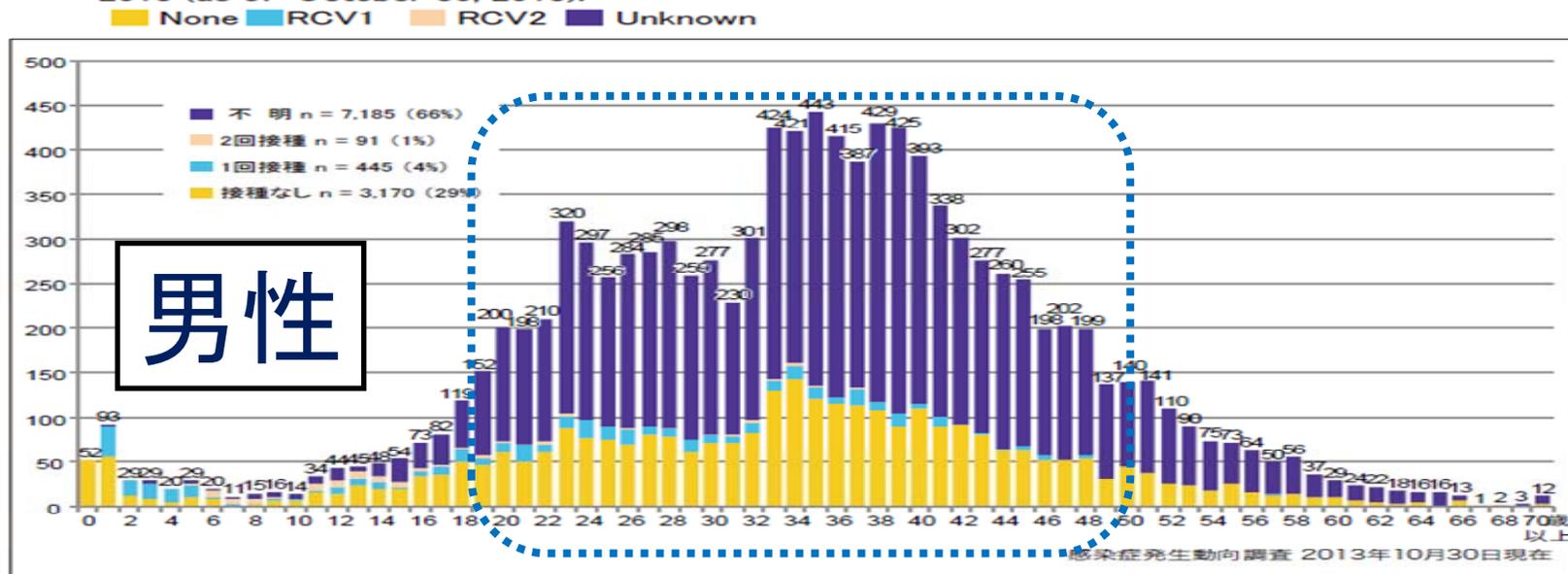
## 1. 風しん累積報告数の推移2009~2013年 (第1~43週)

Cumulative number of rubella cases by week, 2009-2013 (week1-43)  
(based on diagnosed week as of October 30, 2013).

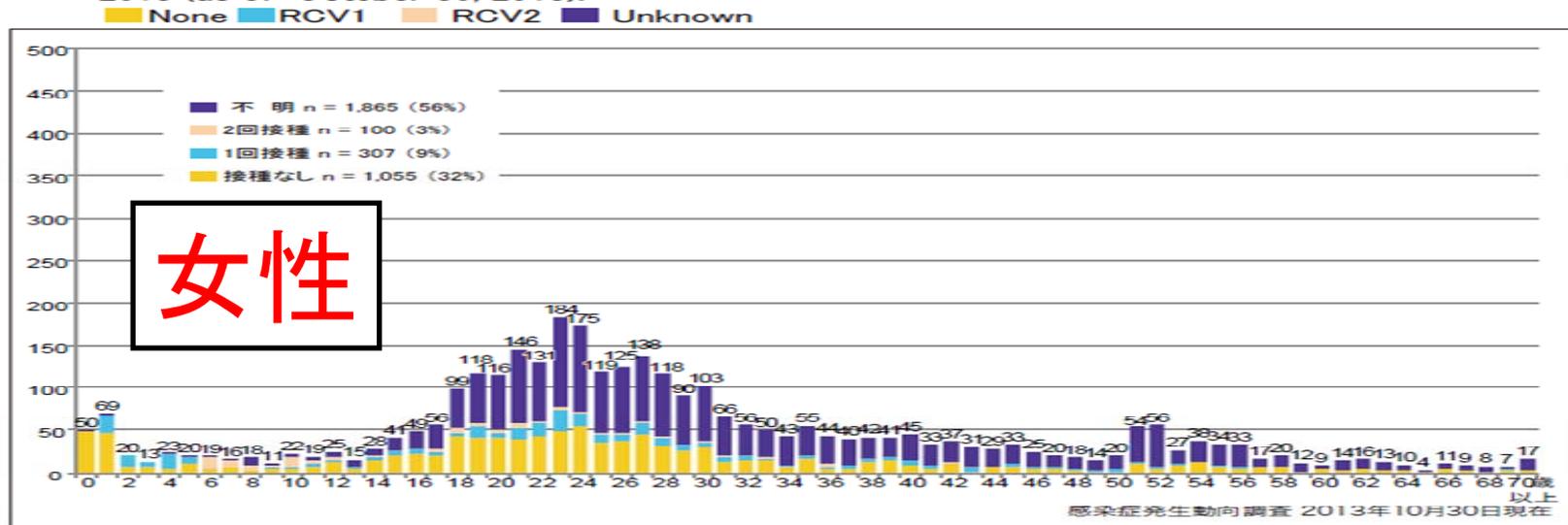


# 風しん発症者の性別グラフ

5-1. 年齢群別接種歴別風しん累積報告数 (男性) 2013年 第1~43週 (n=10,891)  
 Cumulative rubella cases (male) by age and vaccinated status from week 1 to week 43, 2013 (as of October 30, 2013).

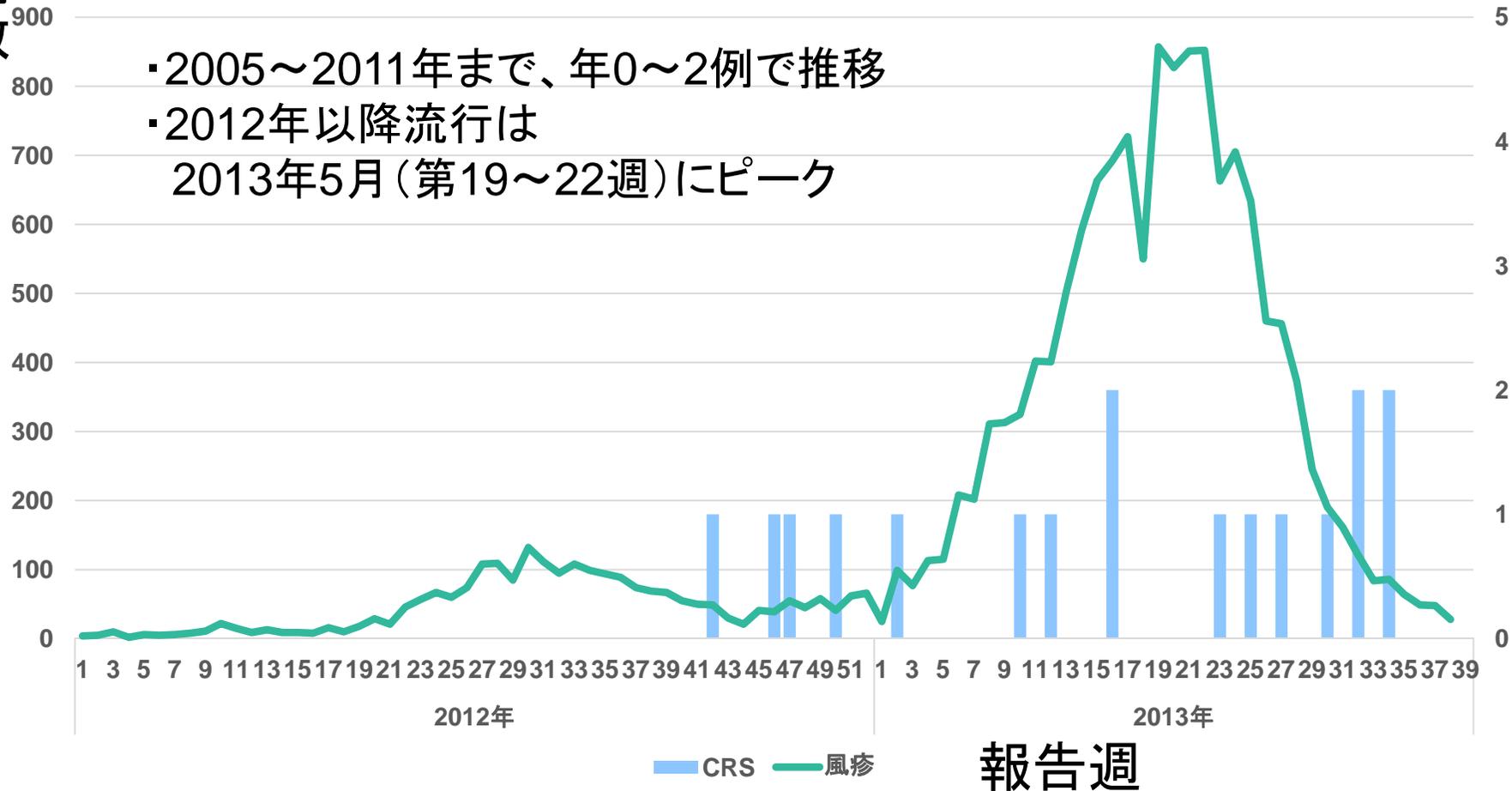


5-2. 年齢群別接種歴別風しん累積報告数 (女性) 2013年 第1~43週 (n=3,327)  
 Cumulative rubella cases (female) by age and vaccinated status from week 1 to week 43, 2013 (as of October 30, 2013).



# 2012年第1週~2013年第39週までに 感染症発生動向調査に報告された 風疹とCRS患者数の推移

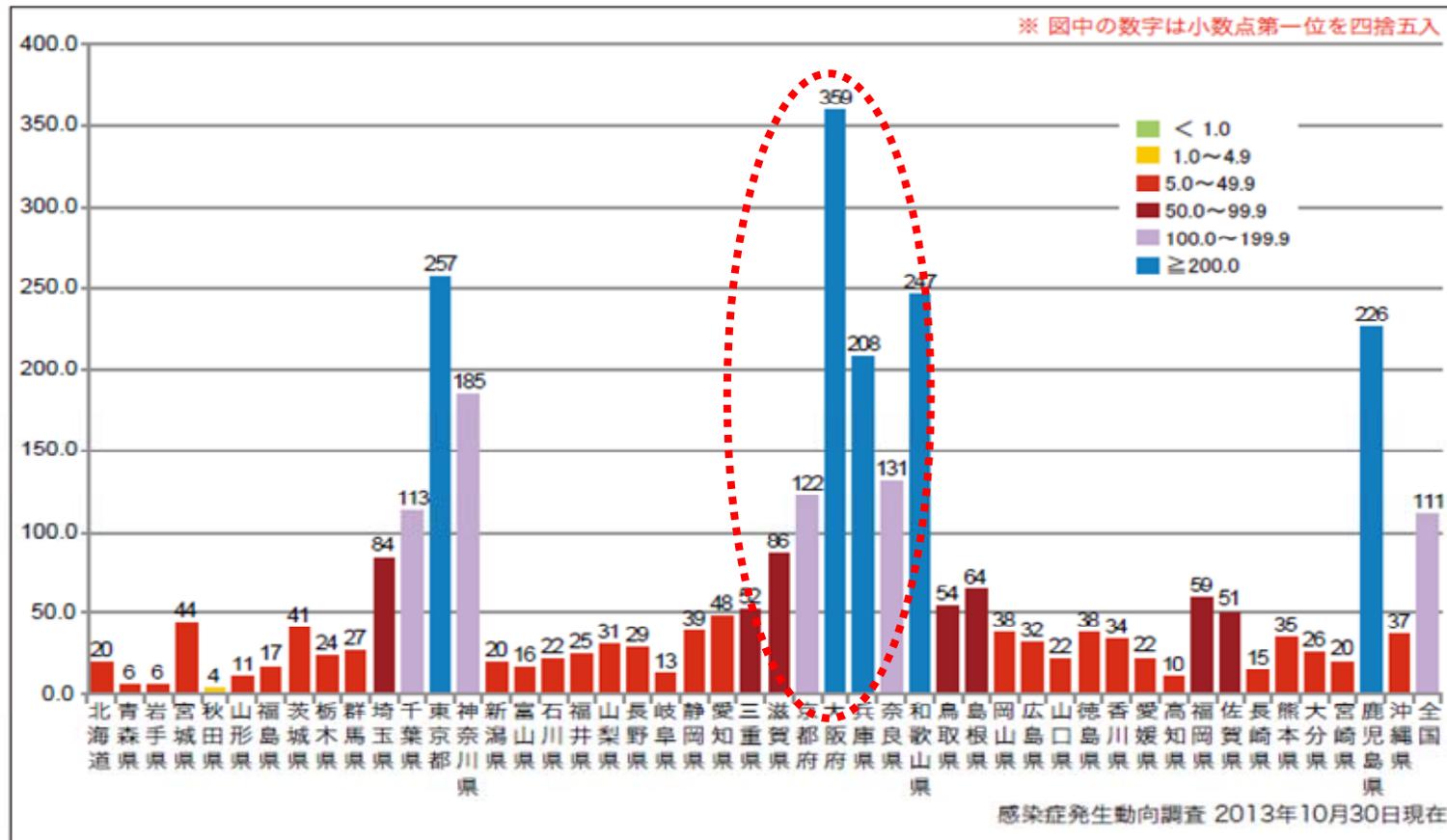
症  
例  
数



# 人口100万人あたりでは？ (2013年第1～43週)

8. 都道府県別人口百万人あたり風しん報告数 2013年 第1～43週 (n=14,218)  
Number of reported cases per 1 million population by prefectures from week 1 to week 43, 2013  
(as of October 30, 2013).

■ <1.0   
 ■ 1.0～4.9   
 ■ 5.0～49.9   
 ■ 50.0～99.9   
 ■ 100.0～199.9   
 ■ ≥200.0



# 2013年の先天性風しん症候群 の報告(10月9日現在): n=16

年	診断週	報告都道府県	感染地域 ※	性別	母親のワクチン 接種歴	母親の妊娠中の風しん罹患歴
2013年	2週	大阪府	大阪府	男	無	あり
	10週	愛知県	愛知県	女	無	あり
	12週	東京都	東京都	男	無	あり
	16週	神奈川県	神奈川県	男	無	あり
	16週	愛知県	愛知県	男	不明	無
	23週	東京都	神奈川県	女	不明	不明
	25週	東京都	東京都	男	不明	あり
	27週	千葉県	千葉県	男	不明	不明
	30週	東京都	埼玉県	男	不明	あり
	32週	東京都	東京都	女	無	あり
	32週	東京都	東京都	男	無	あり
	34週	東京都	東京都	男	あり	無
	34週	東京都	神奈川県	女	無	不明
	37週	大阪府	大阪府	女	不明	あり
	39週	埼玉県	埼玉県	男	不明	不明
	40週	大阪府	大阪府	女	無	あり

## 今流行に関連のある2012年42週~2013年39週に報告のCRS児母親の風疹罹患歴・ワクチン接種歴の分析(n=18)

感染地域	東京5例、神奈川3例、兵庫2例、大阪2例、愛知2例、埼玉2例、香川1例、千葉1例
母親の妊娠中の風疹罹患歴	あり 12人、不明 4人、なし 2人
妊娠週数	中央値9週(5~17週)
母親の風疹ワクチン接種歴	あり 1、不明 8、なし 9

# 報告されたCRS児の障害 (n=18)

- 3主徴のうち
  - 白内障 2例(11%)
  - 先天性心疾患 12例(67%)
  - 難聴 7例(39%)
  - ◆3徴合併 1例
  - ◆先天性心疾患・難聴の2徴合併 1例
- 他の症状としては、色素性網膜症(1例)、紫斑(7例)、脾腫(2例)、小頭症(3例)、精神発達遅滞(1例)、X線透過性の骨病変(1例)、生後24時間以内に出現した黄疸(3例)が認められた例があった(重複含む)。

# CRS18例のまとめと考察

- 風疹罹患の明らかでない母親6例（不明4例、なし2例）罹患時の妊娠週数 中央値9週(5-17週)
- 母親のワクチン歴なし 9例
- 障害：先天性心疾患のみ10例、難聴のみは5例
- 最頻の障害として知られる難聴のみの報告少なく、未診断・未報告例多い？
- 風疹罹患後よりCRS児の出生まで20～30週程度の時間差⇒CRSの報告は今後、増加の可能性